

2020年版 グローバルニッチトップ企業100選について ～関東経済産業局管内の状況～

経済産業省は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業113社（うち関東経済産業局管内の企業は46社）を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定しました。

関東経済産業局 産業部 製造産業課

2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」の概要

背景

- 我が国には国内外で高い競争力を有している企業が数多く存在します。特に、その中には、ニッチ分野において、適切なマーケティング、独自性の高い製品・サービス開発、厳格な品質管理などにより差別化を行い、グローバル市場でもトップの地位を築いている企業があります。
- 経済産業省では、我が国の国際競争力向上の観点から、こうしたニッチ分野で差別化を行い高い実績を上げている企業群を一つの成功類型として着目し、2013年度(平成25年度)には、国際展開に取り組んでいる企業のうち、差別化要因を有しニッチ分野で高いシェアを確保している者を集め、「グローバルニッチトップ(GNT)企業100選」として選定しました。
- その後、日本企業を取り巻く事業環境は変化してきています。具体的には、①デジタル経済の進展、②世界の政治経済情勢の変動、また、③少子高齢化のような社会構造変化などが起きています。
- こうした状況を踏まえ、新たな厳しい経済環境の中においてもニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する企業などを「2020年版グローバルニッチトップ(GNT)企業100選」として新たに募集しました。
- 経済産業省として、今回の認定と顕彰を通じ、対象企業の知名度向上や海外展開を支援するとともに、新たにグローバルニッチトップを目指す企業における経営上の羅針盤として活用いただくことを目的としています。

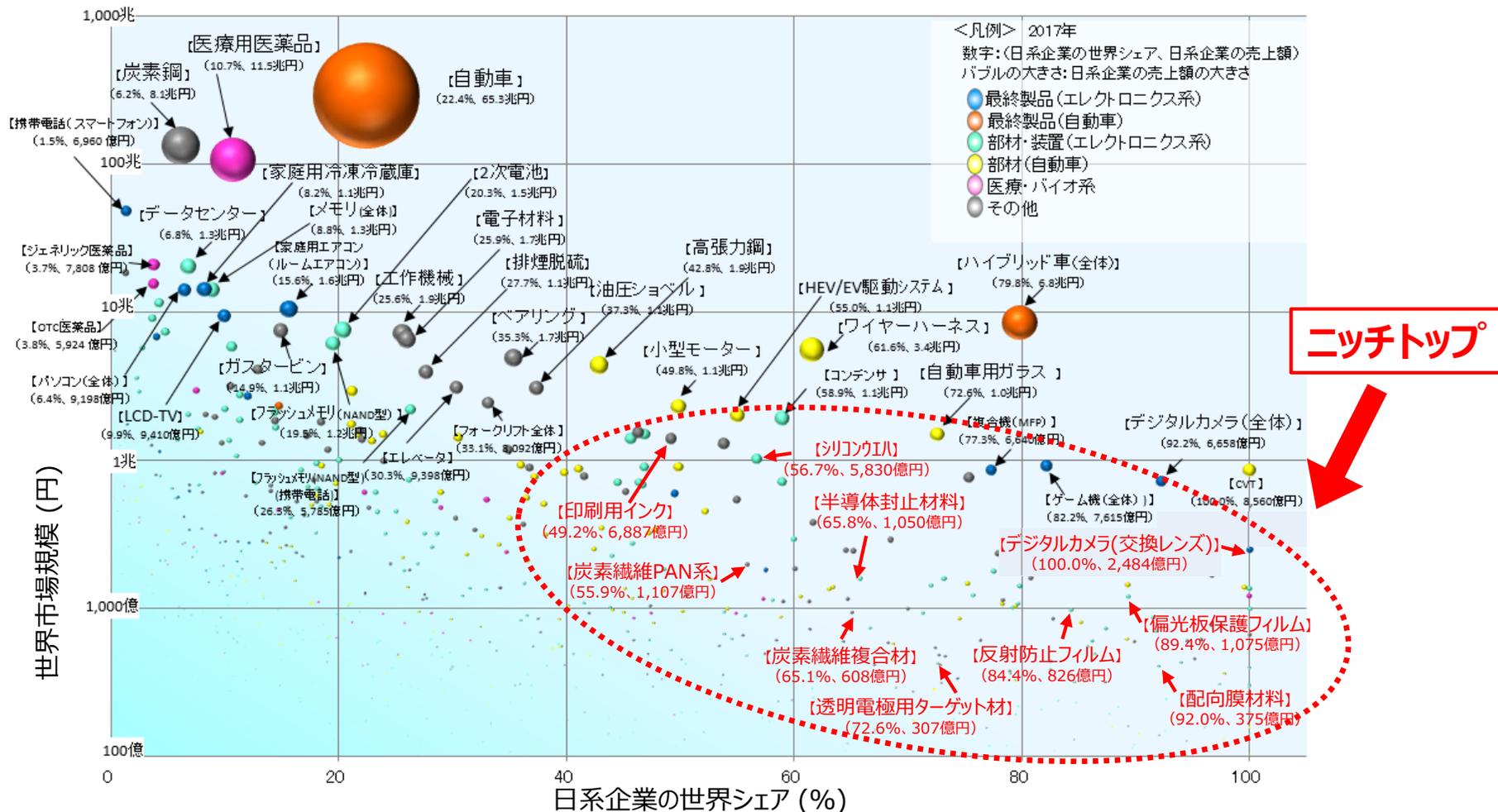
2020年版グローバルニッチトップ企業の定義

- 大企業: 特定の商品・サービスの世界市場の規模が100~1,000億円程度であって、過去3年以内において1年でも、概ね20%以上の世界シェアを確保したことがあるもの
- 中堅企業・中小企業: 特定の商品・サービスについて、過去3年以内において1年でも、概ね10%以上の世界シェアを確保したことがあるもの

国際競争ポジションバルーンマップ

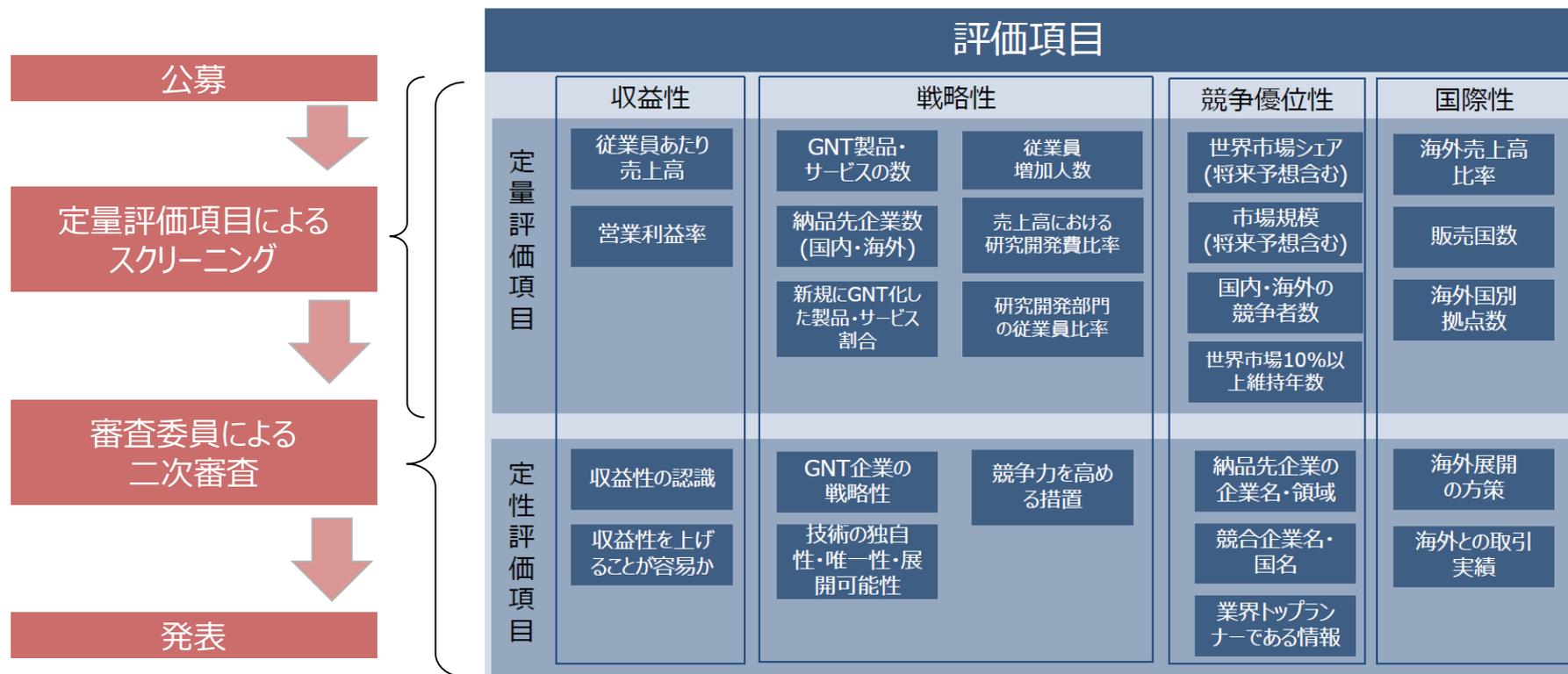
- 日本には、マーケティングや技術開発を通じた差別化戦略により、個々の市場規模は小さいものの、世界シェアが極めて高い製品が多数あり、それを製造する企業は世界のサプライチェーンにおいて「なくてはならない」存在。
- これらの企業群の経営努力を称え、広く世に示すべく、「グローバルニッチトップ企業100選」として表彰。

国際競争ポジションバルーンマップ



2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」選定の流れ

- 経済産業省ホームページで公募を実施。249件の応募あり。
- 定量評価項目によるスクリーニング、外部の審査委員による二次審査を実施。



選定要件

大企業

世界市場の規模が **100～1000億円程度** であって、概ね **20%以上の世界シェアを保有**。

中堅企業

概ね **10%以上の世界シェアを保有**。

※中堅企業：大企業のうち売上高が1000億円以下。

中小企業者

概ね **10%以上の世界シェアを保有**。

選定結果（全国）

- 公募された249社から、外部の選定委員（委員長：沼上一橋大学理事・副学長）による審査を経て、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として**113社を選定**。

重視したポイント

収益性

- ✓ 従業員あたり売上高
- ✓ 営業利益率

戦略性

- ✓ 技術の独自性・唯一性・展開可能性
- ✓ 納入先企業数（国内・海外）
- ✓ 従業員増加人数

競争優位性

- ✓ サプライチェーン上の重要性
- ✓ 世界市場シェアとその将来予測
- ✓ 市場規模とその将来予測

国際性

- ✓ 海外売上高比率
- ✓ 販売国数、海外との取引実績

部門別・企業規模別選定状況

分野	大企業	中堅企業	中小企業者	合計
機械・加工部門	15 (23)	13 (17)	33 (102)	61 (142)
素材・化学部門	10 (15)	6 (12)	8 (19)	24 (46)
電気・電子部門	11 (15)	0 (1)	9 (22)	20 (38)
消費財・その他部門	1 (2)	2 (3)	5 (18)	8 (23)
合計	37 (55)	21 (33)	55 (161)	113 (249)

※受賞企業数。括弧内は応募企業数

※詳細はこちらから 2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」(経産産業省HPへ)



選定結果（関東経済産業局管内）

- 2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として、管内企業46社を選定。

管内の部門別・企業規模別選定状況

分野	大企業	中堅企業	中小企業者	合計	関東局管内の占める割合
機械・加工部門	6社	7社	12社	25社	41.0%
素材・化学部門	4社	1社	3社	8社	33.3%
電気・電子部門	6社	-	2社	8社	40.0%
消費財・その他部門	-	2社	3社	5社	62.5%
合計	16社	10社	20社	46社	40.7%

都県別選定数

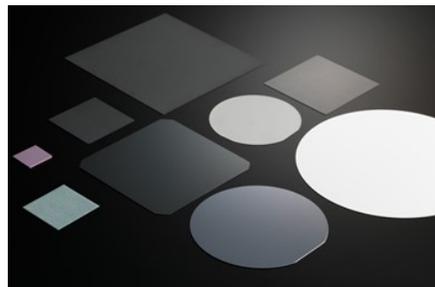


選定企業の事例（関東経済産業局管轄内）

セラテックジャパン株式会社（長野県 長野市）

■ 機械・加工部門／中堅企業

- ✓ GNT製品は、研磨、研削加工によるファインセラミクス材料（硬脆部材）の薄板化技術。
- ✓ 自社のコア技術のみならず前後工程を含めた一貫体制により顧客メリットを提案。
- ✓ 5G基地局向けに使用されている部材や、自動車関連、スマートフォンやタブレット等モバイル機器関連などに使用されている放熱部材の加工においては、世界シェアの80%を超える部材も存在。



脆性材料の薄板化精密一貫加工



新たな加工技術・加工プロセスの開発

株式会社電子制御国際（東京都 羽村市）

■ 電気・電子部門／中小企業

- ✓ GNT製品は、モータ及びトランス等の巻線に対し、非破壊で絶縁不良を瞬時に検査し、良否判定する試験機。
- ✓ 自動追尾や自動ブレーキ、ガソリンから電気へと大変革を迎える自動車や産業用ロボットなどに搭載されるモータや電子チップの検査で導入。
- ✓ 従来製品は、アナログ回路であったが、他社に先駆けてマイコンを搭載しデジタル化することで、競争優位性を獲得。

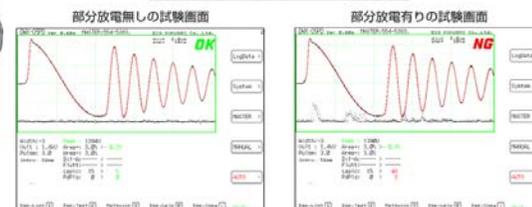


インパルス巻線試験機

インパルス部分放電巻線試験器 DWX-05PD



部分放電検出センサ アンテナ
試験コイル（モータ）



2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」選定企業一覧①（関東局管内）

● 機械・加工部門（25社）

企業名	所在地	企業規模	GNT製品・サービスの名称
レオン自動機株式会社	栃木県	中堅企業	包あん機（ある素材Aを異なる別な素材Bで包みこむ作業を自動でおこなう機械）
関東精機株式会社	群馬県	中小企業	オイルマチック（工作機械向け油温自動調整機）
株式会社フコク	埼玉県	中堅企業	新車装着用ワイパーブレードラバー（四輪車新車に取付けガラス面を拭くワイパーのゴム部分）
NITTOKU株式会社	埼玉県	中堅企業	精密FAライン設備
株式会社industria	埼玉県	中小企業	FILSTAR（エレメントレスフィルター 自動車生産プロセス等に貢献する水の再利用装置システム）
株式会社ジャムコ	東京都	大企業	大型航空機・旅客機用ギャレー（厨房設備）、ラバトリー（化粧室）などの内装品
ユニオンツール株式会社	東京都	大企業	プリント配線板用超硬ドリル（電気製品等の基板の穴あけに使用）
ナプテスコ株式会社	東京都	大企業	産業用ロボットの関節などに使用される精密減速機
THK株式会社	東京都	大企業	直線運動部の「転がり化」を実現した「LMガイド」
日機装株式会社	東京都	大企業	航空機逆噴射装置向けカスケード
日進工具株式会社	東京都	中堅企業	工作機械に取り付けて金属等の加工等を行う刃先径の小さな小径エンドミル
株式会社小森コーポレーション	東京都	中堅企業	商業用オフセット印刷機（枚葉機・輪転機）、証券印刷機、B2デジタル印刷機

企業名	所在地	企業規模	GNT製品・サービスの名称
ユナイテッド・プレシジョン・テクノロジーズ株式会社	東京都	中小企業	ハイエンド・スマートフォン・カメラ向け光学式手振れ補正用スプリング（VCM）
日本分析工業株式会社	東京都	中小企業	分離精製装置（リサイクル分取液体クロマトグラフ）
株式会社環境経営総合研究所	東京都	中小企業	NECRES（高水分の有機性廃棄物と廃プラを混練・熱分解によりカーボン化）
碌々産業株式会社	東京都	中小企業	高精度高速微細加工機シリーズ
株式会社モリカワ	東京都	中小企業	有機溶剤ガス回収装置REARTH® SシリーズF型
田中科学機器製作株式会社	東京都	中小企業	流動点・曇り点試験器「MPCシリーズ」
株式会社ソディック	神奈川県	中堅企業	NC放電加工機
株式会社昭和真空	神奈川県	中小企業	水晶振動子製造工程用「周波数調整装置」
株式会社ソノテック	神奈川県	中小企業	超音波カッターを利用した多種多様な材料の切断加工
牧野フライス精機株式会社	神奈川県	中小企業	高精度CNC工具研削盤
アドバンス理工株式会社	神奈川県	中小企業	熱電特性評価装置ZEMシリーズ
日精イー・エス・ビー機械株式会社	長野県	大企業	プラスチックボトルの生産機「ストレッチブロー成形機」、金型、付属機器、部品等
セラテックジャパン株式会社	長野県	中堅企業	脆性材料の薄板化精密一貫加工

2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」選定企業一覧②（関東局管内）

● 素材・化学部門（8社）

企業名	所在地	企業規模	GNT製品・サービスの名称
東洋合成工業株式会社	千葉県	大企業	感光性材料（半導体回路形成に使用されるフォトレジストの主要原料）
パウダーテック株式会社	千葉県	中小企業	電子写真用キャリア
田中貴金属工業株式会社	東京都	大企業	燃料電池用触媒
旭化成株式会社	東京都	大企業	再生セルロース繊維キュプラ（ベンベルグ®、ベンリーゼ®）
JFEスチール株式会社	東京都	大企業	超大型コンテナ船用極厚高アレスト鋼板
株式会社フルヤ金属	東京都	中堅企業	イリジウム化合物（有機EL発光材向け一次材料）
中興化成工業株式会社	東京都	中小企業	建築用ふっ素樹脂膜材 ChukohSkyTM FGTシリーズ
ナミックス株式会社	新潟県	中小企業	フリップチップ実装用アンダーフィル剤 等

● 電気・電子部門（8社）

企業名	所在地	企業規模	GNT製品・サービスの名称
株式会社JEOL RESONANCE	東京都	大企業	高磁場(300MHz以上)NMR（物質の分子構造など様々な化学構造情報を測定）
横河電機株式会社	東京都	大企業	安全計装システム ProSafe-RS
株式会社電子制御国際	東京都	中小企業	インパルス巻線試験機
京西テクノス株式会社	東京都	中小企業	グローバルリペアサービス（GRS）
レーザーテック株式会社	神奈川県	大企業	半導体マスク欠陥検査装置
株式会社ニューフレアテクノロジー	神奈川県	大企業	高精細な回路パターン描画を可能とする先端半導体向けフォトマスク量産用電子ビーム描画装置
東京応化工業株式会社	神奈川県	大企業	半導体製造用フォトレジスト、高純度化学薬品
株式会社コイケ	山梨県	大企業	SAWウェーハ

● 消費財・その他部門（5社）

企業名	所在地	企業規模	GNT製品・サービスの名称
マニー株式会社	栃木県	中堅企業	眼科ナイフ
興研株式会社	東京都	中堅企業	マイティミクロンフィルター
ダイナミックマップ基盤株式会社	東京都	中小企業	センチメートル級HDマップ
株式会社アタゴ	東京都	中小企業	ポケット糖度・濃度計、ポケット塩分計、ポケット非破壊糖度計、ポケット糖酸度計、ポケットpHメーター
株式会社流機エンジニアリング	東京都	中小企業	トンネル集塵機Pシリーズ

選定結果（全国）の分析①

- 選定企業は、単純平均で、世界市場シェア 43.4%、営業利益率 12.7%、海外売上比率 45.0%という優秀な企業群となっている。

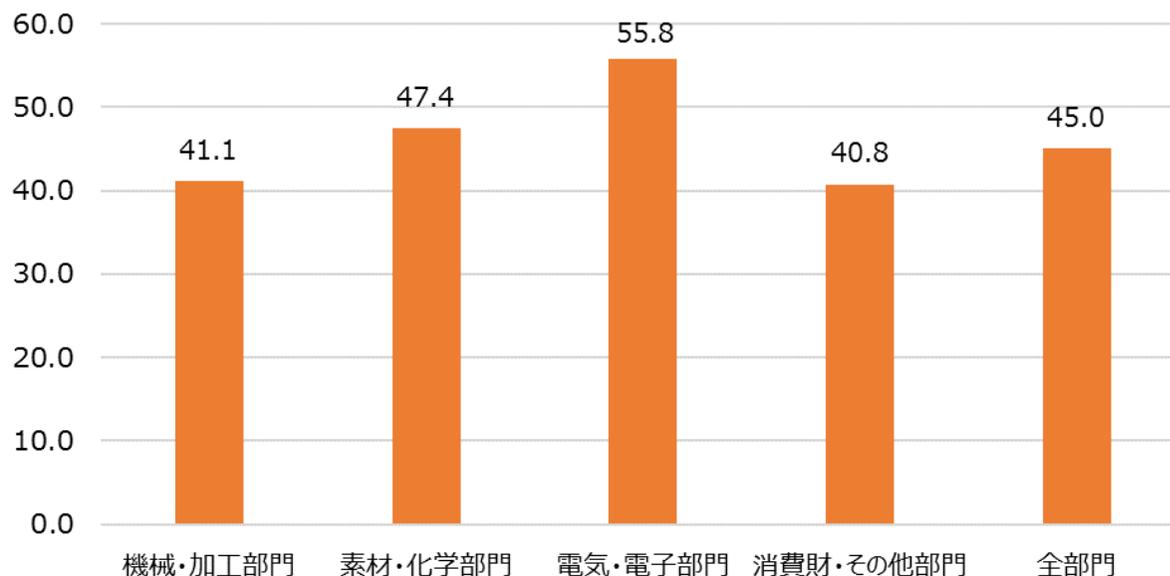
世界市場シェア

機械・加工部門	39.8%
素材・化学部門	50.6%
電気・電子部門	42.9%
消費財・その他部門	50.5%
全部門平均	43.4%

営業利益率

機械・加工部門	11.2%
素材・化学部門	13.9%
電気・電子部門	11.6%
消費財・その他部門	23.9%
全部門平均	12.7%

海外売上比率



(参考) 業種別の営業利益率 (2018年度実績)

製造業(全体) : 4.8%

生産用機械器具製造業 : 8.6%

化学工業 : 8.8%

電子部品・デバイス・電子回路製造業 : 3.9%

選定結果（全国）の分析②

- 選定企業113社について、各企業が提供している製品・サービスの現在の市場規模と、5～10年後に予想される市場規模について聴取した結果、平均してGNT市場規模は2.21倍の成長率となった。
- 電気・電子部門の予想は1.16倍にとどまっているが、これは、電気・電子部門においては、製品・サービスのライフサイクルが短く、市場のニーズが急速に変化していくとの予想を反映しているものと考えられる。

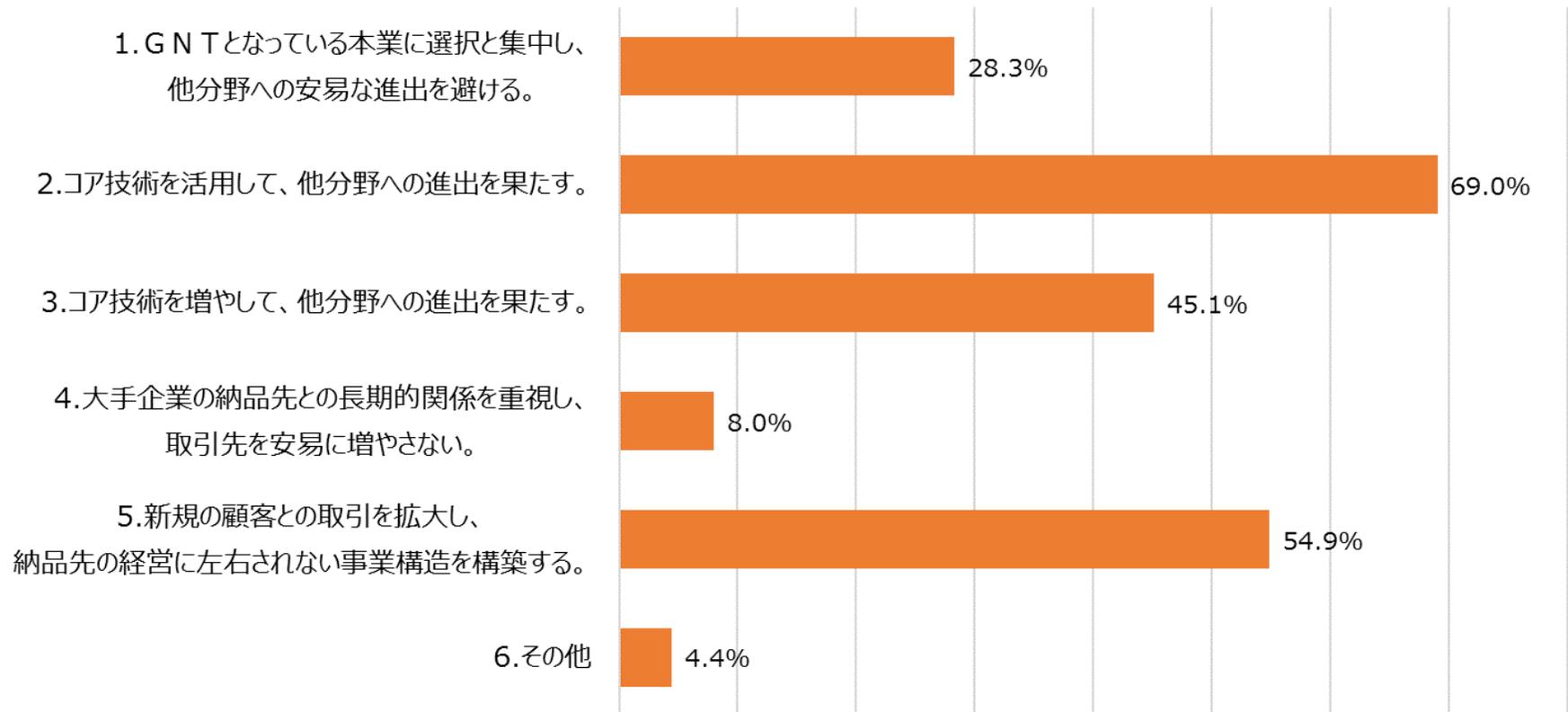
GNT製品・サービスの世界市場規模の成長見通し

	世界市場規模（億円）		成長率 【B/A】
	現在【A】	将来【B】	
機械・加工部門	1098.5	2567.2	2.34
素材・化学部門	304.8	631.8	2.07
電気・電子部門	410.4	477.3	1.16
消費財・その他部門	104.5	355.4	3.40
全部門平均	737.8	1629.6	2.21

選定結果（全国）の分析③

- 選定企業113社にGNT企業の取るべき戦略について聴取したところ、「コア技術を活用した他分野への進出」（69.0%）、「新規顧客との取引拡大」（54.9%）との回答が多かった。
- また、「コア技術を増やし他分野へ進出」（45.1%）という研究開発志向型の企業や、「他分野への安易な進出を避ける」（28.3%）といった集中志向型の企業も一定数存在。

GNT企業の取るべき戦略



（複数回答可）